

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に真摯に取り組む生徒が多いが、基礎的な内容が定着していない生徒が少数いる。家庭学習などでの反復学習や課題の見直しなどの習慣付けが必要である。</li> <li>・読書の習慣が身に付いている生徒とそうでない生徒がおり、読解力に差がある。</li> <li>・相手の意見を聞き、根拠を挙げて自分の意見を述べるなどの言語活動をどのように進めるかの工夫が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字学習ノートを活用し、定期的に小テストを実施し、自身の理解度を確認するとともに、漢字学習の習慣を身に付けさせる。また、教科書の補助学習教材を課題として活用することで、家庭学習の定着を目指す。</li> <li>・朝読書に主体的に取り組ませ、読書感想文や論文作成の指導において、読書の有効性および学習への活用を伝えていく。</li> <li>・1学年のスピーチ、2学年のパネルディスカッション、3学年のブックトークおよびワールドカフェの指導を軸に、言語活動を積極的に授業へ取り入れていく。</li> </ul>	<p>○：チームティーチングにより、支援が必要な生徒や、作業が止まっている生徒への個別対応が可能となり、各改善策が円滑に実施できている。</p>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義形式の授業とグループ学習とをバランスよく組み合わせ、全員が積極的に参加できるような工夫をする。</li> <li>・生徒に、知識や考えたことをまとめさせて、それを文章化し発表させる機会を増やす。</li> <li>・学習進度が計画から大幅に遅れがちになるため、より効率的な学習計画を立て直す必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・板書ばかりの講義形式の授業展開だけにならないよう、ワークシートや視聴覚資料を効果的に活用する。</li> <li>・文献資料、地図、写真などの資料を多く取り入れ、既習知識と結び付けながら考えさせる機会を増やすなど、思考・判断・表現力の向上に努める。</li> <li>・多くの生徒が興味・関心をもてるように、新聞やテレビでの報道なども利用して、できるだけ現代の社会事象と結び付けた指導を進める。</li> </ul>	<p>○：ワークシートを中心に、自分の意見や考えを表現できる機会を増やしている。</p>
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理解できていない部分の定着を図る指導を行う。</li> <li>・授業に対する姿勢はよいが、学びに対して受け身な生徒もいる。発問に対し積極的に考え、主体的に取り組み、自ら発言できる姿勢を身に付けさせる。</li> <li>・すぐに解けない問題を自分で解決しようとする生徒が増えてきたが、間違いに気付かず先に進んでしまい、結果的に誤答をしてしまう生徒がいるので、その都度声掛けが必要である。また、発展的な内容に関する取組を苦手としているので、問題を数多く解き、苦手意識を取り除き、じっくり考える力を付けることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項の確認や定着のために、授業の初めにプリント練習を行う。授業で取り扱った内容について、課題プリントを与え、繰り返し演習を行う。</li> <li>・受け身な生徒や自力では演習に取り組めない生徒に対して、授業の中で個別に指導する。また、学力向上支援講師と連携し声をかける回数を増やす。</li> <li>・基礎計算の部分で同じ間違いを繰り返していることが多いので、同じ系統の問題を繰り返し解く時間を設ける。文章問題に関しては、問題文の読み取りが不十分なために立式ができない等の課題があり、繰り返し解かせていく指導が必要である。学力向上支援講師と連携し、生徒が質問しやすい状況を作る。</li> </ul>	<p>○：多くの生徒が主体的に取り組み、発言が多く見られるようになってきた。習熟度別少人数授業では、適切なコース選択をし、標準コースでは学力向上支援講師に自ら積極的に質問している。</p>

理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>理科に興味関心をもつ生徒が多いが、自然の事象・現象についての基礎的な概念や原理・法則を理解し、それを基に思考・判断を行い、科学的な視点で自然の事象・現象を捉える経験が不足している。また、科学的な視点で捉え、自らの考えを表現する力が不十分であり、表現力の育成を含めて指導の工夫が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察・実験に日常生活に関する身近な学習材を取り入れ、体験的な学習を中心とした指導を行う。また、その体験から導き出される結果を表やグラフ等を用いてレポートにまとめ、思考・判断を行い、小グループ内での発表の機会を設定するなど、自然の事象・現象を科学的に捉え、思考・判断し、そして表現する力の育成を図る。</li> </ul>	<p>○：制約のある観察・実験では、演示や動画等を活用し、また思考実験などを取り入れた指導の工夫を続けている。</p>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的、基本的内容を定着させるために、音楽用語、読譜力などについて、繰り返し、確実に理解させる。</li> <li>与えられた課題だけにとどまらず、自主的により深く曲を分析する姿勢を身に付けられるように自ら考え、学習していく力を付けさせる。</li> <li>アルトリコーダー・箏についての基本的奏法を身に付けさせ、表現の工夫を考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実技の基礎、歌唱では声の出し方、器楽では構え方から丁寧に指導する。また、楽典についても、プリントなどを作って基礎から行い基礎力を上げていく。</li> <li>意欲をもって取り組んでいけるように、教科書などの教材にとらわれず、様々なジャンルの曲を取り入れ、授業に興味・関心をもてるようにする。</li> <li>パート練習の時を中心に、声の出し方等の個別指導をしながら、生徒の実態を把握し、教員が個々の理解に努める。器楽においては、アルトリコーダー、箏の指導について、一人一人の技術や進み具合を把握して、個々に合った進捗で、課題を進めていくようにさせる。</li> </ul>	<p>△：必要に応じて指導計画を入れ替えたり、代替案を考えながら指導を工夫している</p>
美術	<ul style="list-style-type: none"> <li>関心・意欲はあるが、アイデアを考える段階から先に進めない生徒が多い。見る・聞く・触れる・想像するなどの実体験の不足が原因と考えられる。その結果として作品を仕上げるまでの時間が多くかかりすぎる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>イメージしやすいように参考作品を提示または展示する。作業が遅れている生徒には昼休みや放課後の時間に補習授業を行う。作業が苦手な生徒には、学校生活支援員や学習指導サポーターを活用する。</li> </ul>	<p>◎：参考作品を掲示することにより想像力を養い、イメージを膨らませるきっかけを作ることができた。放課後の補習授業も有効だった。必要に応じて新型コロナウイルス感染予防に配慮した安全計画や作業計画の変更を行う。</p>

<p>保健 体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健体育に興味や関心をもつ生徒は多いが、「走る」「投げる」「とる」「跳ぶ」など基本的な運動能力が不足している。また、なぜできないか自ら考えることはできるが、それを表現する力が不足している。運動能力の向上と表現力の育成が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な運動能力（持久力・瞬発力・ジャンプ力・スピード）を養うために、なわとびを継続的に行う。主体的に学習に取り組みさせるため、グループ活動を中心に言い、互いに考え、アドバイスや協力しながらあきらめずに課題に取り組みさせる。また、できる生徒の模範演技ややり方のポイントを発表させ、課題解決のヒントにさせ、意欲を向上させる。</li> </ul>	<p>○：多くの生徒は主体的に活動をしている。また、表現活動も多くみられるようになった。制約のある中、運動量を確保し、課題解決できる授業を工夫する。</p>
<p>技術 家庭</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの生徒は主体的な姿勢で学習に取り組んでいる。しかし、実体験不足から技能や思考・判断・表現に関する力が不十分だと思われる。</li> <li>・基礎的、基本的な内容を十分習得させ、さらに生活に生かす力を身に付けさせる題材や指導方法を工夫する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活に生かせる力を身に付けさせるために、日常生活と関連付け、より実践的・体験的な製作と実習を多く取り入れた授業を考える。</li> <li>・製作を通して仕事の楽しさや完成の喜びを味わえるように工夫する。生活に必要な技能の定着を図る。</li> </ul>	<p>○：多くの生徒は主体的な姿勢で学習に取り組んでいる。思考・判断・表現が見られるようになってきた。</p>
<p>外国 語</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんどの生徒が会話練習など積極的に行っているが、即興的なやりとりの力を伸ばし実践的なコミュニケーション能力を向上させる必要がある。</li> <li>・授業中は理解できているが、学習事項の定着に至らない生徒がおり、基礎・基本を確実に身に付けさせることが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な場面設定をした上で、既習事項を使うヒントを与えることや、ALTと連携しインプットも増やすことで発話の量と機会を増やしていく。また、良い表現や間違えやすい表現などを共有し、表現力を向上させる。</li> <li>・授業中の活動や学習の中で、計画的に繰り返し語彙に触れ練習したり、文法の学習を行ったりして、知識や技能を向上させる。また、家庭学習でも反復練習を行わせる。</li> </ul>	<p>○：即興的なやりとりは抵抗なく行える生徒が増えている。表現を正確に幅広くしてかれるように指導していく。また、会話や文法練習の中で、繰り返し既習事項を使わせるようにしている。</p>